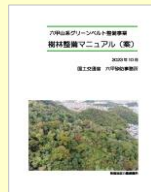


森の世話人活動支援事務局からのお知らせ

六甲山系グリーンベルト整備事業 樹林整備マニュアル（案）について

六甲山系グリーンベルト（以下GB）整備事業・樹林整備マニュアル（案）は

GB整備事業の樹林整備において、**目標とする樹林**を成立させるために必要な調査及び整備・管理に関する基本的な考え方と技術的事項についてとりまとめ、**樹林整備・管理作業に役立てるもの**とし、もって円滑で効率的な事業の実施を図れるようにすることを目的として、とりまとめられています。



この度、マニュアル（案）が改訂されました。このお知らせでは、改訂された中から、主に森林撫育作業者による整備や技術支援、落葉広葉樹林のコナラ・アベマキ群集を整備の目標とする森の世話人活動で参考となる一部を記載しています。

改訂版の「六甲山系グリーンベルト整備事業・樹林整備マニュアル（案）」
「みんなの森づくり（計画編）樹林整備マニュアル（案）ハンドブック」は
六甲砂防事務所のホームページに掲載予定です。



主に森林撫育作業者による 整備時の伐採木と保存木

伐採木

マツ枯れ、ナラ枯れ等の伝染病による枯損木
拡大防止を図るために必要に応じて伐採

目標とする樹林を育成する上で支障となる樹木
例：ニセアカシア、ニワウルシ、オオバヤシヤブシ等

落葉広葉樹林を目標とする場合は、生育している常緑樹
例：ソヨゴ、ヒサカキ、ネズミモチ、イヌツゲ等

外来種
例：ニワウルシ、ニセアカシア、ナンキンハゼ等

保存木

目標とする樹林を目指す上で保存が望ましい樹木
例：目標となる群落・群集の構成種等

兵庫県内ではニホンジカの食害が問題となっており
六甲山系でも将来のシカの分布拡大に備えて保存木に
ニホンジカの不嗜好性植物を追加

例：アセビ※ ウリハダカエデ等

※ただし、アセビは常緑広葉樹であり林床の光環境を阻害する可能性があるため、保存する場合は下部の枝の剪定などによって林床の光環境を確保することが望ましい



伐採木の処理について

伐採木は、残置すると流木になるおそれがあることから、搬出することが望ましいが、困難な場合は適宜有効利用を検討する。

有効利用の例 以下のような利用について検討する。

ある程度太い木（主枝や幹）
土留め工の横木、レクリエーション施設への利用（登山道の補修やベンチなどの材料）
植栽木の支柱などの資材、ウッドチップの原料など

細い木（小枝程度）
つるや荒縄で縛り、束（粗朶）とし、林内へ設置する。

表土流出の防止に寄与するとともに、小動物の隠れ家などとしても有効である。

- 留意点
- ・伐採木を林内へ残置する際は、木杭での固定など流木対策を併用することが必要である
 - ・ニセアカシアについては萌芽するので、杭などに使用してはならない
 - ・マツ枯れ、ナラ枯れ等による枯損木は再利用の対象としてはならない



丸太筋工の横木

ニセアカシアの萌芽対策

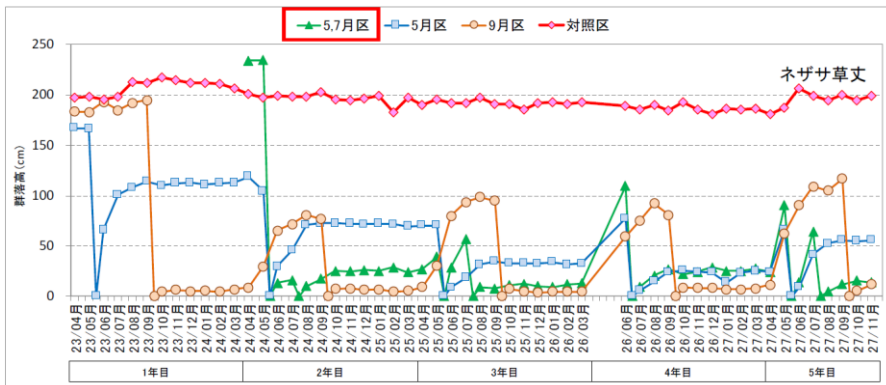
ニセアカシアは伐採や巻枯らしによる整備を行っても、萌芽枝や根萌芽によって再生しやすい。立木は「巻枯らし+薬剤塗布」、切株から発生した萌芽枝は「伐採+薬剤塗布」や「伐採+薬剤注入」で最も高い効果がみられる。薬剤は比較的入手が容易な**グリホサート剤**※が適している。

※使用には注意が必要 薬剤による萌芽対策は技術支援でも行っています

下刈りの実施時期

ササ類を対象とした下刈りの時期は試験施工による検討により、以下に示す時期に実施するのが望ましい。

- ・ 頻度：整備直後からササ類・大型草類がある程度衰退するまでは 年 2 回実施
- ・ 時期：植栽後～3 年目 5 月・7 月 2 回刈り/年
4 年目以降 5 月・7～9 月 (秋季) 2 回刈り/年
- ・ 期間：植栽木がササ類等の丈 (2m程度) を超えるまで、植栽後 5 年程度 毎年実施



※平成 26 年 4～5 月は欠測

森づくり活動で実施
いただいておりますが
7月～9月は
熱中症の危険あり！

無理はしない！

下刈りの際の注意点等

● 植栽木の根際でササ類を下刈りする際

- ・ 植栽木の周辺は、可能な限り手刈りすることが望ましい。
- ・ 刈払機 (草刈り機) 使用の際は、誤伐を防ぐために植栽木から半径 30cm まで行うこととする。その結果、植栽木の周囲にササ類が刈り残されても良い。誤伐する状況の方が樹林整備にとってはデメリットとなる。

誤伐に注意！

● ニセアカシアなどの萌芽を対象とした下刈り (萌芽再生などを抑制するために行う)

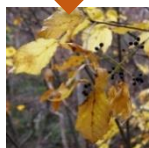
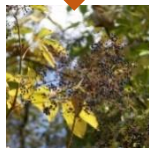
- ・ 期間：6 月～8 月
- ・ 頻度：年 1 回程度
- ・ 期間：植栽木の林冠が閉鎖し、萌芽幹に光が届き難くなる程度まで毎年実施

ササ刈りと同時に行うと効果的

樹林整備の基本方針は「落葉広葉樹林」その中の植栽候補樹種について

ハンドブックの植栽候補樹種は落葉広葉樹を中心に、ブナ-シラキ群集/コナラ-アベマキ群集 エノキ-ムクノキ群集の区分けで記載

コナラ-アベマキ群集では、近い将来にナラ枯れが再発する可能性が考えられるため、従来のコナラ類やシデ類、ウワミズザクラ、エゴノキ、カスミザクラなどに加え、多様な樹種の森を目指す
追加樹種例：コシアブラ、タカノツメ、ハリキリ等



ニホンジカによる食害に強い
ウリハダカエデを追加



2023 年 森の世話人に新しい仲間が増えました

株式会社ナンバーズリー (活動地：神戸市灘区 渦が森南 WELLBEING の森)



今までに森づくり活動に携わった団体は 67 団体、現在は 43 団体が活動されています。

未来を守る緑の六甲へ